

みんなが笑顔でいられる町に

東栄小学校 6年
松下 結楽

ある日の夕方、私は母と一緒に近くのスーパーに買い物に行きました。買い物かごを持ちながら野菜売り場を歩いていると、少し先で高齢のおばあさんが財布を落としてしまったのが見えました。私はとっさに「落としましたよ」と声をかけて拾い、おばあさんに手渡しました。おばあさんは、ほっとした顔で「ありがとうね」と笑ってくれました。その時、心がとてもあたたかくなりました。

家に帰って母に話すと、「人のものを拾つたら必ず届ける。そういうことを積み重ねると、みんなが安心できる町になるんだよ」と教えてくれました。私はその言葉が心に残りました。

学校でも似たような経験があります。休み時間に友達が忘れた筆箱を廊下で見つけたことがありました。誰も見ていなかったけれど、私は職員室に届けました。後でその友達が「ありがとう」と言ってくれて、私もうれしくなりました。もし拾った人がそのまま持ち帰つてしまったら、その友達は悲しい気持ちになっていたかもしれません。こうした小さな出来事の一つ一つが、犯罪や非行を防ぐことにつながるのだと感じました。

ニュースでは時々、万引きやいじめ、SNSでのトラブルなどの話を耳にします。そうしたことは誰かを傷つけたり、不安な気持ちにさせたりします。私たちが毎日の生活の中で「少しの思いやり」を持つことで、そういった問題を減らせると思います。例えば、困っている人を見つけたら声をかける、落とし物は必ず届ける、ネットでは相手を傷つける言葉を書かないなどです。小さな行動でも積み重なれば、大きな力になるはずです。

また地域の人たちとのつながりも大切だと感じます。私の町では年に一度「町内清掃」があり、家族や近所の人たちと一緒に公園や

道路を掃除します。普段あまり話さない人ともあいさつを交わし、「ここにちは」と笑い合える時間はとても気持ちがいいです。顔見知りが増えると、もし何か困ったことがあった時に助け合えるし、知らない人が不審な行動をしていたらすぐに気づくことができます。地域全体が家族のように支え合うことで、犯罪や非行の起きにくい町になるのだと思います。

私は将来、大人になっても「ありがとう」と言い合える関係を大切にしたいです。自分がしてもらってうれしかったことを、今度は自分からできるように行動したいです。そのためには、まず毎日の生活で周りをよく見て、困っている人がいないか気づくこと。そして勇気を持って声をかけたり、行動したりすることが大事だと思います。

社会を明るくする運動は、特別な誰かだけがやるものではありません。私たち一人一人が、日常の中で少しだけ相手を思いやる行動をすること。それが積み重なって、みんなが安心して暮らせる町になるのです。おばあさんに財布を届けた日のように、私はこれからも周りの人が笑顔になる行動をしていきたいと思います。